



のっぽの手

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル
TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218
E-mail center@f-npo.jp
URL <http://www.f-npo.jp/>

何とかなるものですね



ふくしまNPO
ネットワークセンター

理事 齋藤 健

約4年ほど前に30年務めました会社を退職しまして、ふくしまNPOネットワークセンターには昨年に入会を致しました。

退職をする数ヶ月前までは退職後の生活がどのようになるのかはあまり真剣に考えてはいませんでした。むしろ、退職をしてその時になってからいろんな事を考え、関係する本を買って読んだり出たとこ勝負の対応でした。まあ、ごく普通の人と同じような事をして来ていると思っています。いろんな事が言われたり、聞かされたり、書かれたりしていますが、例えば、趣味を持ってとか地域の人との付き合い方とか資産管理とか等々、とてもそんなに出来るものではありません。ですが、自分が何となく興味を持っている事柄にはなんかの折には“おっ”と思うものでしてその時にどこかにメモを残しておくことで後で重宝します。ネットが結構便利な時代になっていますので、その辺りを利用することも有用です。

最近はいろんなポイントカードのようなものも有効に利用するようにしています。例えば、映画の福島フォーラムですがシニア料金ですと1000円（通常料金は1700円、割引券もくれます。）でして、3回スタンプをもらおうと無料招

待券をもらえます。

そのほか福島民報CCの割引券、ヤマダ電機のポイントカードとか諸々持っています。

最近まではあまり関心がありませんでしたが、使えばなんか得をしたようになります。多くの女性が財布の中にいろんな割引券とかポイントカードを入れているのを理解しているこの頃です。

また、去年は家の近くに畑を借りまして、小さい耕運機を買い、片手間に諸々の野菜を作りました。ダイコン、ネギ、白菜、キャベツ、トマト、ナス、キュウリ、とうもろこし、ジャガイモ、さつまいも、さといも、枝豆、ニラ等々ここに書ききれないくらいの種類を作りました。

ですが、食べきれなくてあげる事にも四苦八苦しています。（捨てるのはもったいないので）作り方は本を買って読んだり、ネットで調べたり、隣の畑の叔父さん、叔母さんに聞いたり収穫はまあまあという程度はありました。そうしますと自然に近所の方々、隣の奥さん、ご主人との共通の話題が出来まして会話も出来るようになりました。

今年は一週間に2、3回の散歩（1時間以上）をして体重を7キロ落とすことを目標にしています。この前は天気がいまいちでもいまいちから、足に1kgの錘を着けて4日ほど続けて張り切りましたら足のふくらはぎの筋に異変が起きてズーっとごろごろしています。

こんなふうにして少しずつ時間を埋めて行っています。

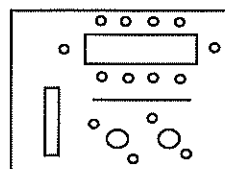
結論は“まあ何とかなるものですね”ということで、よろしくお願いします。

学院大NPO実習室の利用について

福島学院大学駅前キャンパス4FのNPO実習室（当センター管理）を無料で貸し出しています。10名程度の会議、講習会などにご利用ください。

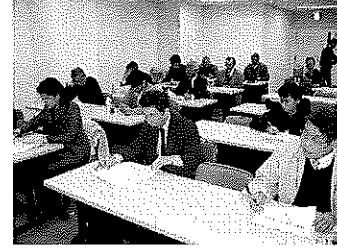
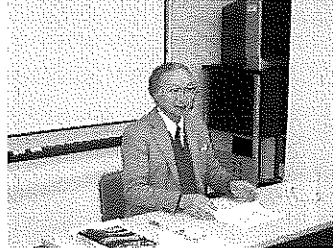
利用時間 平日10時～20時 土曜日10時～16時
問い合わせ先 TEL 024-528-1211

※駐車場はありませんのでご注意ください。



「市場化テスト」の導入とNPO

話題提供：ふくしまNPOネットワークセンター
理事長 清水修二



「市場化テスト」は、小さな政府を目指し、公共業務の外部化を押し進める1つの方法で、あえて分かり易く別の言葉で置き換えれば「官民競争入札」制度のことである。民間が担うことができるものは、官民間で、あるいは民間で、競争しながらふるいに掛けていこうという制度である。類似の公共業務の外部化を押し進める方法に、「民間委託」や「指定管理者制度」があるが、「民間委託」の場合は業務の詳細を行政側で決定するもの、また「指定管理者制度」の場合は公の施設の管理運営に限定して委託するものであり、外部化する目的や基本方針を行政側で決定するもの、民間側から対象業務の提案ができる仕組みになっている。入札に当たっては、従来型の仕様書にもとづく発注ではなく、求める水準のみを示した上での性能にもとづく発注で、事業の具体的内容は応募者が提案し、提案評価についても非価格的な要素を含む総合評価方式が考えられている。落札者の決定は、審議会などの第三者機関の議を経て、行政機関の長が行うことになっている。

清水さんは、いくつかの問題点や課題も指摘した。たとえば、最終的に行政機関の長が判断することになるが公平性は確保されるのか、行政内の発注部局と入札参加部局との情報遮断が果たして可能なのか、事業の統一・整合性や継続性が担保されるかどうか、企業と役所の会計制度の違いや間接費の計上についてどう考えるか、などなど問題点や課題である。いずれにしても、この制度は行政側に改革を迫るものになりそうであるが、われわれNPOサイドでも、真に受け皿となれる力量をつけていく必要があると思われる。

(星野 珙二)

第3回理事研修会報告 (2007.3.12)

半田理事が持論を披露「ハートのNPO論」

本センターきっての人情派、半田節彦理事のNPO論を披露していただきました。私にとっては久々の「哲学的」議論であり、学生気分がよみがえりました。半田さんの見解では、科学偏重の物心二元論が現代世界の矛盾の根源であり、「精神」と「現象」を融合したトータル人間学によって問題の解決を図るしかないということです。

NPOの経営との接点については正直言って私にはよく分かりませんでした。私なりの受けとめ方で表現すれば、人のハートから発するエネルギーが物質的な力となって相手に作用する、そういう「感化力」といったものが人間関係の真髄であること、そして、相手に作用すると同時に当の本人自身が「変わる」という姿勢がなければ、人を動かすことはできないということではないでしょうか。(半田報告のサブタイトルは「『私が変わります』宣言が問題を解決する」というものでした。)

$E=mc^2$ というアインシュタインの方程式も、半田理論を応用すれば「組織のエネルギー」＝「マインド」×「コネクションの自乗」という按配になります(笑)。

私たちのNPOにとって、今大事なのはハートの関係だと私も感じています。お金や義理で繋がっている間柄ではありませんから、理事も職員も気持ちよく活動できる環境をつくることができなければNPOなんかやっても意味がないと思います。

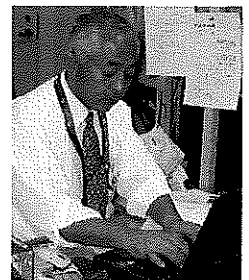
「NPO的人間論」について、これからも話題にしていきたいものです。半田理事以外の方からもそんなお話を聞かせていただけたらありがたいと思います。

(半田哲学の解釈についての誤りがあれば私の責任ですー清水。)

(清水 修二)

ふくしま情報ステーション所長

武藤 進



ガラガラ…引き戸を開けると、その店の母ちゃんが、
「はい」

振り返りながら目を丸くして、

「なんだべ、あんだ、ヒダヒダでねーの。バイクで来たの、バガだこと、この雨のなが」「んだって、信天中出て、田んぼの真ん中あたりまで来たら、ザッたもん、停まって雨宿りしても、どうせ、濡れちゃったと思って、ここまで一直線で来たんだ、あーあ」「ほんじゃ、あんだ、風呂入りナ。いま、父ちゃん、上がったばかり、だから米屋の旦那が、風呂前、汗を流した直後であった。」

「ほだごとゆったって、カバンス、集金した金、はいってんモノ」「何、かだってんだが。風邪ひいたら、明日休むようになって、もども子もねえびした。カバンなんか、わだし見でっから、はやく、風呂さ、入りナ」

入庫当初、日掛けで訪れた建材屋やで便意をもよおし、逡巡の末、カバンを持ったままトイレに駆け込み、出てきたあと気まずい思いをしたこと。町内の和菓子屋で、ばあちゃんに「たのむ」といって、出てきてから「瞬間的に信用を噛みしめる大事さ」を教わったこと。などが、次々に浮かんで消えたが、

「エーイ、ままよ」と、びしょ濡れの上着に手をかけ、シャワーを拝借、サッパリしてタオルで顔を拭きつつ、

「どうもない、アレッ、俺の下着は」

「ぬっちだから、センタク、しちゃったよ」「えーっ」くだんの主人のパンツから上着までを借用しての帰店となった。

「あれっ、朝とネクタイ違っんじゃないの…それに、背広もなんか、ダブダブだなあ」

コンプライアンス大はよりの昨今、隔世の感がある。私の信金道は、こうして始まった。

市民活動サポートセンターより

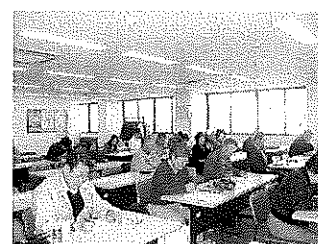
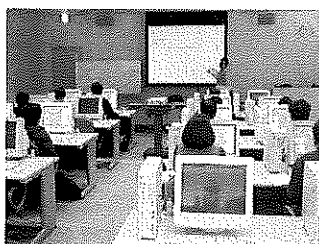
講座と講演会等イベント～今年度のふくサポ・市民活動支援事業について

福島市市民活動サポートセンター 古山 郁

講座は、市民活動ステップアップ講座とNPOマネジメントおよび会計講座との2本柱。講演会等イベントも3回と、昨年度と同様の開催をしました。

今年度は2つの講座とも07年1月～2月の短期間での連続講座に。もちろん単発の受講も受けましたが、“活動や団体運営をトータルで考える”ことを前提に企画、構成しました。市民活動ステップアップ講座は「人」「お金」「情報」。NPOマネジメント講座は「事務局」「事業計画と企画」「運営と評価」「資金調達」と、いずれも活動の課題として関心の高いテーマを取り上げました。また、NPO会計講座は経理初心者と経験者の2コースで、共にPC会計実習を重点的に行いました。

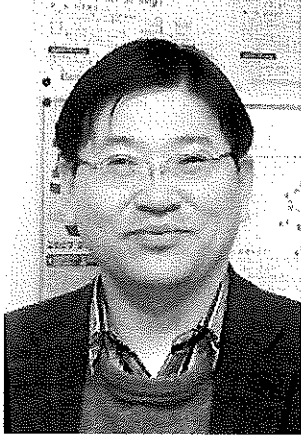
そして、講演会等の事業に関しては、市民活動フェスティバルの他、昨年度は講座・入門編で取り上げた『What's 市民活動・NPO?』をより多くの方々へ伝えようという狙いでオープンセミナーに。また、ミニシンポジウム『NPOのあかるい未来を話そう～他所（よそ）の成果・県北（うち）の課題』は、先行事例を聴くだけでなく、調査報告とパネルディスカッションを通して、自分たちの活動や地域を皆で考える場を設け、情報交換や交流に活かしていただきました。



新理事の自己紹介

このたび1年ぶりに復帰いたしました

地方公務員/東北大学大学院生 松田 英明



会津への転勤を機に理事を退いておりましたが、このたび1年ぶりに復帰いたしました松田です。センター会員の皆さまには、“また”よろしくお願ひいたします。m(´)`m

事務局から原稿の依頼を受けたのは12月のクリスマス前でした。思い起こせば、1年前のその頃は当時の理事が引き起こした不祥事が発覚し、会員の皆さまをはじめとする多くの方々にご心配とご迷惑をおかけすることになった時期でありました。私も調査・対策委員会の一員として事件の究明に関わることになりましたが、あれから1年、会員の皆さまの「不信感」は幾ばくかでも払拭できましたでしょうか？理事に復帰してからの私の関心はその一点に集約されます。

NPO法人を含む市民活動団体が地域社会の中で責任ある役割を果たすためには、組織を支える『自立』と『自律』という両輪が機能することが必要であると言われております。私自身としては、それに加えて、組織運営の執行を担う理事は、センターの理念（社会的使命）を事業として如何に実現していくべきなのかを常に『自覚』していることも不可欠であると考えています。

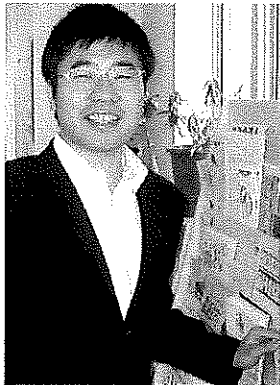
もっとも、「責難は成事にあらず」ことは言うまでもありません。小野不由美さんの異世界ファンタジー小説に出てくるこの言葉を心に留めて、『自戒』しなければと思う今日この頃であります。

お詫び

前回の掲載文において編集のミスにより末尾3行が欠落しておりました。大変申し訳ありませんでした。ここに改めて再掲載させていただきます。

新スタッフ紹介

福島市市民活動サポートセンター 森本 和仁



福島県の地を踏んで、ちょうど7年が経ちました。現在は「福島市市民活動サポートセンター」で勤務しております。そもそも生まれも育ちも九州の私を暖かく迎え入れてくれた福島県・福島市民の役に立ちたいという想いで働いて参りました。

今後も“ふくしまNPOネットワークセンター”の仕事を通して、福島県民・市民のために尽力していきたいと考えております。これからもどうぞ、よろしくお願ひいたします。

編集後記・事務局便り

もう早くも春ですね。今年の冬は無かった感じなので、何だか季節の変わり目がよくわかりません。それでも桜の花が咲いているのを見ると新しい気分になります。

さて「のっぽの手」では誌面充実の為、理事、職員はもとより、会員様、各団体様よりの投稿をお待ち申し上げます。当センターへのご意見、日頃の活動に関する事、はたまた「よもやま話」などございましたらぜひ下記宛にお寄せいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

(渡 辺)

ふくしまNPOネットワークセンター事務局

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビルB1

E-mail center@f-npo.jp FAX 024-528-1218

